競争力培う積極投資

つくり支える

長崎工業会企業の現場 ③

2017年、長崎市の出島に約130年ぶりに橋が架かった。緩やかな曲線美。櫛のような欄干。無数の穴が開いた橋桁―。中島川をまたぐ「出島表門橋」は鉄製なのにぬくもりを感じさせ、のちにグッドデザイン賞に輝く。

久保工業は大島造船所（西海市）と共同企業体を組んでその製造を担った。だが、国史跡を掘って橋台を設けることはできない。吊り橋だと出島ならではの景観を損ねてしまう。外資系設計会社から示された構造は、久保工業にとって「経験のないもの」だった。

長さ38・5メートルの橋が接地する支点は3カ所。一つは出島側。ほか二つは対岸の江戸町側に置いて橋の自重で下方向に引っ張り、中間の支点を軸にシーソーのように持ち上げて、出島への荷重をほぼゼロにした。

「ほとんどが曲線なので組み立てが難しい。溶接の熱による歪みをいかに抑えるかも鍵だった」（生産部次長の江口雄一郎さん）。ビード（溶接跡の膨らみ）が目立つようだと設計会社から容赦なく指摘された。社長の髙橋伸也さん(66)は「観光地長崎の〝顔〟として、社員が誇れるものができた」と胸を張る。

こうした優れた技術は、船や橋、火力発電プラント向けなどさまざまな鋼構造物を造る中で培われた。とりわけ積極的な設備投資が競争力を支える。

久保工業 ＝金属製品・機械器具製造＝

西日本最大級の門型5面加工機。工具を取り付けた門型の主軸が動き、鋼材を上や前後左右から加工する ＝長崎市、久保工業小江工場

港に張り出たクレーンで運ばれる出島表門橋のブロック （久保工業提供）

最近は5億円を投じた「門型5面加工機」が小江工場で稼働。底面以外を一度に加工でき、クレーンで向きを変える手間を省ける。西日本最大級で長さ約12メートル、幅約4メートル、高さ約3メートルの鋼材まで対応。外注していた機械加工を内製化した。

ガス燃料用の球形タンクを製造できる油圧プレス機も備える。工場棟から港に張り出たクレーンで船に直接積み込み、大型製品を海上輸送できるのが強みだ。

自社開発し製品化に至った産業機械もある。「形鋼歪み矯正装置」は断面が「H」の形をした規格を超える大型鉄骨に対応。国内外に千台以上納入した。約40社ある国内橋梁メーカーはいずれも、こうした久保工業製の装置を導入している。

主要取引先の三菱重工業から商船関連の発注は途絶えたものの、自衛隊艦艇関連は今後も期待される。米海軍との取引も増えつつある。現場に必要な人材は、性別や国籍を問わず積極採用していく構えだ。髙橋さんは、受注実績のある洋上風力発電関連も含め「仕事の幅をもっと広げたい」と前を見据える。

（後藤敦）

＝随時掲載＝

企業プロフィル

髙橋さんの祖父が1948年に創業。現在は長崎市内に本社（小浦町）や小江工場（小江町）など5拠点を置く。従業員数160人。火力発電プラントに微粉末状の石炭を供給する管の摩耗を防ぐため、管の内側にセラミックスを張り付ける補修工事も担っている。

無断複製・転載を禁じます